

関は皆無に近いのが現状です。

このような状況を踏まえ、当クリニックでは膿栓症への対応としてバイポーラ凝固治療を積極的に実施しています。治療の基本的な流れは扁桃肥大の場合と同様になりますので、ここでは膿栓症治療に特有の部分を中心にご紹介します。

なり、上扁桃窩が開口します(図右)。これにより上扁桃窩での膿栓の形成を抑えることができますようになります。



1 凝固部位について

(1) 使用装置について

CelonENT電源装置本体とプロスリーブプラスハンドピースを組み合わせて使用します。

(2) 出力設定について

扁桃の凝固治療は内部の凝固を7Wの出力で行い、また扁桃の表面や前口蓋弓の凝固は20Wで行っています。

扁桃肥大の場合と同様に凝固を行い、扁桃を縮小させることで陰窩のくぼみを浅くし、開口部を広げて膿栓が溜まりにくい状態にします。さらに、前口蓋弓が被さった状態になっている上扁桃窩には大きな膿栓の固まりが起きやすいため、プローブを前口蓋弓の粘膜に刺入して(図左)、これを切除するような感覚で凝固させると、引きつれた状態に

2 手術回数について

前口蓋弓及び上扁桃窩への処置は、1回の凝固では期待する縮小効果が得られない場合が多く見られます。そこで、この治療を実施する患者さんには、満足できる状態になるまでには凝固を繰り返す必要があることを説明しておきます。これまでの実績では、最高で4回、多くの症例ではそれ以下の回数で十分な効果が得られています。

なお、膿栓症と同じ側の処置を望む患者さんには、3カ月の間隔を空けるようにしています。これは、処置後の扁桃に膿栓ができるかどうかの見極めと、患者さんへの猶予期間の意味を持ちます。つまり、膿栓という症状は患者さん自身が気にするかどうかの問題ですから、本当に再処置が必要かどうかを本人に落ち着いて考えてもらうことを意図しています。

● 笠井 創 先生 プロフィール

昭和52年 千葉大学医学部卒 耳鼻咽喉科入局
昭和58年 千葉大学大学院医学研究院卒
国保君津中央病院 医長
昭和60年 国立がんセンター中央病院
頭頸部外科医員

昭和62年 横須賀共済病院 医長
千葉大学医学部非常勤講師
平成02年 笠井耳鼻咽喉科気管食道科
クリニック(横浜)開設
平成11年 笠井耳鼻咽喉科クリニック
(自由が丘診療所)開設

笠井耳鼻咽喉科クリニック
自由が丘診療室
KASAI Ears, Nose & Throat CLINIC

〒152-0035 目黒区 自由が丘 1-29-14 J-フロントビル3F
Tel.03-5729-4187
<http://www.linkclub.or.jp/~entkasai/index.html>

